

子どものあそびは ぼうけん なのだ。

な ん む
の ひ む つ き
ち



広い庭で遊ぶ子どもたち



室内で思い思いに過ごす子どもたち



おやつが買える駄菓子屋コーナー



みんなで遊べるプチイベントも

石田町の民家に、地域の子どもたちが集まって庭で過ごしたりマンガを読んだり、自由に遊べる「こどもの居場所とあそび場～みんなのひみつきち」（以降：みんきち）があります。

今も昔も子どもたちが憧れる「ひみつきち」を作った、藤井 朋子さんとスタッフ取材しました。



（左から）みんきちを運営する藤井 朋子さん、安部 佳奈子さん、尾本 久美子さん、寺内 優里さん

思い切り遊べる「みんきち」 ママ友と一緒に作りました

藤井さんは約10年前、中心市街地から少し離れた石田町の古民家に移り住みました。前の所有者の家財も残っていて、手入れも必要だったけれど、母屋に加え、離れの納屋、以前は畑だったという広い庭、背の高い木や実のなる木もありました。母屋で隠れて通いから見えない納屋と庭は、まるで子どもころに憧れていた「ひみつきち」のようです。

4人の子育てに奮闘しながら、

広い庭でのびやかに遊ぶわが子の姿を見ているうちに、わが子だけではなく、たくさんの子どもたちが外でいっぱい体を動かして遊べる居場所を作りたいと考えようになりました。

藤井さんの思いに、ママ友も協力してくれることになりました。納屋の漆喰の壁は子どもたちも一緒に、みんなでリノベーション。庭の高木には、タイヤと木のブランコをつり下げました。

そうして令和6年11月、藤井さん宅の納屋と庭が「みんきち」としてスタートしました。

わが子から地域へ輪が広がる とびきりの自由時間

みんきち最初の利用者は、わが子とお友達でした。それから少しずつ広がって、今では地域の子どもたち、学区の子どもたち毎回25人ほどが遊びに来られるようになりました。

月に1〜2回、水曜日にオープンします（夏季は蚊と暑さのためお休み）。みんきちに来た子どもたちは思い切り自由。かくれんぼやブランコなど外で遊ぶのも、マンガやゲームなど室内で遊ぶのも、何もしないのも自由です。みんきちを拠点にしながら、玉津小学校のグラウンドや公園で活動することもありますが、マンガやゲームのある土間に



は、スタッフが用意したいろいろな駄菓子を買っています。1個30円とか40円とか、お菓子を自分で計算してお小遣いで払います。スタッフが店員をしますが、時にはみんきちに来た子ども同士で店員さんをすることも。高学年のお兄さんやお姉さんは頼もしい存在です。

市の助成金や、地域住民、子どもたちの保護者が協力してくれたおかげで、ゲームや家具がそろって、基地の中も少しずつ充実してきました。

子どもたちの創造力を育て 3年目のみんきちも楽しく

春休みには子どもたちの進級進学を祝って、特別におやつ「ふるまい」をしました。参加した子どもたちは、庭で収穫した



かんきつの手作りジャムやチョコクリームバナナ、卵マヨネーズ、ハムなど、いろいろなサンドイッチを作って食べ、はちきれんばかりの笑顔を見せていました。みんなで「みんきち」の旗作りやたき火を楽しむイベントも催しました。

みんきちの活動も3年目。開催日になると子どもたちのぎやかな笑い声が響いています。藤井さんは「自由な遊びの時間を通って幸福感や自己肯定感を育み、想像力や創造力を大きく広げて、子どもたちは成長すると信じています。『ひみつきち』はわが家の敷地内ですが、未

の子が小学校を卒業した後もできるだけ長く、子どもたちの居場所と遊び場であり続けたいと思っています」と話していました。

